

## ジュッペちゃんの涙（平成 24 年 8 月 10 日号）

大中里保育園 園長 塩川寿平

### 園長先生のお願い！ お盆休暇の使い方・・・『わが家の歴史を伝えよう』

#### 1、私の失敗談

『お盆休みには“家庭教育”をしてください』と、一昨年、保護者の皆さんに呼びかけました。後日、数名のお父さんお母さんに話しかけたところ『勉強をさせました』ということでした。内容は、「漢字のけいこ」や「足し算」や「引き算」をしたそうです。また、ある親は「英語の塾へ行かせました」という報告でした。大失敗でした。“教育”という言葉がいけなかったのです。教育＝勉強＝知育と、理解されてしまったのです。私の意図に反して大失敗でした。

#### 2、お盆休暇には、わが家の歴史を伝えてほしい

私が意図したのは、それぞれの家庭の個人情報＝プライベートな歴史を子供にしっかりと伝えてほしいということだったのです。それは保育園や幼稚園や小中高校では不可能に近いことだからです。今日、集団教育＝公教育の場では個人情報＝プライベートな家庭の歴史にふれることは技術的に困難です。だから『家庭でしかできない教育なので家庭教育』と私は述べたのですが、貴重な時間が付け刃的な『薄っぺらな知育』になってしまったことを残念に思いました。

知育は学校や塾でも、後々社会教育でも身につくのです。お父さんお母さんと一緒に暮らせる貴重なお盆休暇であるからこそ、子供時代を逃がしては身につかない、『わが家でしかできない！』、自分の家の成り立ち＝わが家の真実の歴史＝個人情報＝プライベートな内容を、愛し合う家族という『血の流れた肉親の信頼関係のもと』で、子供の脳の中にしっかりと刻印づけしてほしいというのが、私の意図した本来の家庭教育のお願いでした。

#### 3、【分相應】と【知足＝タルヲシル】の教育

「不平不満を言う人」「すぐキレル人」「うらやましがる人」「他人を軽蔑する人」「暴力に走る人」の精神構造を見てみると『競争原理で生きている人』です。また、1番でないとはダメという『ナンバーワンの精神構造の持ち主』です。相対評価に基づく能力主義にすっかりはまって、しかも自分は誰よりも優秀な人間であると錯覚してしまった人です。

集団教育は何をやっても1番2番3番・・・と能力によって個人差が誰の目にもはっきりと見えています。たとえば、徒歩競争でも跳び箱でも漢字や英語の暗記でも集団教育では個人差は明確に生まれます。学力低下と学力テストの作今では一層のことです。

そして、集団教育＝公教育は「負けるな」「頑張れ」「どこまでも どこまでも どこまでも 永久に努力



せよ」となってしまうのが普通で、心の休まる時の無い常に戦場と言えるでしょう。そのような教育も私は50%は肯定します。しかし、集団教育の固有の欠陥は、残り50%の重要な教育内容の【分相応】と【知足】を実感させることができないということです。

では、心の平安を作り出す【分相応】と【知足】の人格を育てるのは「どこで」「誰が」するのでしょうか。それは、『家庭の成り立ち＝わが家の歴史』の真実を伝えること以外には不可能なのです。とういのは、どこの家庭でも実際のところ【分相応】と【知足】の生活哲学で日常的に暮らしているので、まさにその日常がモデルであり、お父さんお母さんと同じ屋根の下で暮らす中から学びとることによって脳への刻印づけとなるのです。

家風を重んじる安定した家庭ほどその通りです。「ウチはウチ！ 他家をうらやましがるな！ かけがえのない尊いウチの子！ 絶対評価！」の哲学が実行されているのです。

#### 4. お盆の行事こそチャンスです

わが家の精霊をお迎えするためのお墓の草取りをしながら、お花を飾りながら、お墓参りをしながら、先祖の生き方や努力した話を伝えましょう。わが家の成り立ちを伝えることです。今がある自分の存在を知った時、そして自分のルーツ（＝家系図）を知った時、子供は肉親に感謝し手を合わせます。

曾祖父母・祖父母・父母の生きてきた生活の苦勞と努力を知り、血族への帰属意識と精神同一化現象により、はじめて自己肯定感情や自尊感情が生まれます。

たとえば、①わが家の昔は小作で農地解放で自主独立。子供を大学に出せるまでになったこと。②曾祖父の会社が倒産し、祖父は出稼ぎに、子供だった父が親代わりに働いてわが家を守ったこと、等々。どこの家庭にも小説が書けるほどの歴史があります。

その真実を伝承することを私は『家庭教育をしてください！』とお願いしたのです。ところが教育という言葉が入ったので知育になってしまったのは失敗でした。改めて私は声を大にして伝えたいのです。『お盆休暇にはわが家の歴史を伝えましょう！』と。 集団教育では難しい教育内容といえば、【かけがえのないウチの子】【分相応】【知足】の人格教育です。それぞれの家庭で『故人となった祖先の方々がみんな帰ってくるという、このお盆というチャンスを生かして』、わが家の歴史の伝承に挑戦してください。

#### 5. わが子が幸せな生涯を送るための＝何よりも大切な哲学です！

1番になること（ナンバーワン）が良いという教え。相対評価により他人より優位に立てという教え。学校教育では偏差値による通信簿で「できる子」「おとる子」に分けられます。社会人になれば能力査定によって給料の「高い人」「低い人」の差となります。この現実を避けて通ることはできません。したがって私もこのような競争原理を50%は認めます。集団教育の良い面とも言えるので、「がんばってください」とも言います。

しかしながら、この能力主義とは違う考え方も同時にとても大切なのです。『どの花見てもキレイだな』『みんなちがってみんないい』という園長先生の大好きな言葉です。

絶対評価という価値観です。肉親的な家族関係では優劣を決める勝負の必要はありません。お父さんの方が偉いとか、お母さんの方がもっともって偉いとか、勝負する必要はありません。兄弟姉妹の間でも優



劣を決める必要はありません。

どの子もかけがえのないわが子（オンリーワン）で良いという教え。個性尊重という絶対評価の世界の教え。これこそが【分相応】【知足】の人格教育です。

この現実の世界では、『ナンバーワン』と『オンリーワン』の哲学の両立を会得した人だけが、幸せな生涯を送ることができるのです。お父さん お母さん お願いしますよ。

